分科会について

分科会について

- 第5期総合計画は、計画を作って終わりではなく、**作った後しっかりと動かしていく、実践していく**ことを大事にします。
- 分科会では、これまでの審議会の意見などを踏まえた基本構想（案）をもとに、**次年度以降の実践モデルの具現化にむけた、より具体的な検討**を行います。
- 2つ分科会に分かれて、それぞれのテーマについて議論します。
- 第5期総合計画で大切にする「協働」の視点から、市民ができること、市民と行政が協働で取り組むことを、行政職員も一緒にテーブルに入り、実践モデルづくりの検討を行います。
- これは、総合計画策定後、計画が進化しながらしっかりと動いていくための、**仕組みを考える試行的な取組**としても位置づけています。
- そのため、分科会での成果は、総合計画の内容に反映させるとともに、今後予算化を含めて実践していくことも検討しています。

分科会のテーマ

- 第4回審議会において、13の戦略プロジェクトに対して出された意見を参考に、関連する意見が多かったものをテーマとして設定します。

戦略プロジェクト （※第4回審議会提示案）	意見数
1. コミュニティによる地域運営	19
2. 市民の健康が原動力	9
3. 地域の子育て力UP	27
4. 高齢者の活躍の場づくり	20
5. 手話文化が広がる地域社会	4
6. ICTによる市民力向上	7
7. エネルギーで儲けて市民に還元する	6
8. 石狩湾新港地域のダイナミズムを活かす	9
9. ISHIKARI創造産業	11
10. 石狩の顔づくり	19
11. 厚田浜益を守り育てる	19
12. 世界に誇る石狩文化創造	7
13. 世界レベルの人材育成	9

これまでの審議会の意見から

- 世代間交流の促進
- 住民組織による身近な事業
- 子どもに高齢者が昔遊びを教える　など

- 地域で支える子どもの教育
- 高齢者の活躍、組織化（子ども見守り隊）

- 石狩の拠点の明確化

- 地域ごとの石狩のよいところを再発見
- 厚田浜益の魅力の発信
- 厚田浜益の特産品のPR

【第1分科会】
「高齢者の活躍」

【第2分科会】
「石狩の顔づくり」

分科会の進め方

分科会の進め方について

- 2つの分科会を、それぞれ3回（予定）開催し、各テーマについて検討いただきます。
- 3回の分科会を通して、「協働」の視点から市民ができることを中心に、次年度以降の総合計画の運用における、協働の取組の実践モデルを具体的に検討していただき、総合計画に反映させるとともに、その具現化につなげていきます。

9/16

分科会（1回目）
- 第5期総合計画（基本構想）の考え方の確認・共有
- テーマに関する具体的な検討
  - 特に大事なこと、大切にしたいことは？
  - それぞれのテーマにおいて、なぜ（目的）、どのような取組（目標）が大切か

取り組む目標を考える

→ 実践する政策目標・取組を決める（なぜ、どのような理由で、誰のために　等）

10月
～

分科会（2回目）
- 協働のプロジェクトの実践に向けた具体的な検討
  - 前回のグループ議論からの政策目標について、協働（自分ごと）のプロジェクトとして、どのようなことができるか
  - 協働の視点から、どのように実行するか、他の取組との組み合わせ

実行手段を考える

→ 実践のための具体的な実行手段を考える（いつ、誰が、どのように　等）

分科会（3回目）
- 協働プロジェクトの実践に向けた具体的な検討
  - 次年度以降、実際にすすめるには？どんなことから取り組むか？
- 各グループでの実践モデルの発表と全体討議・共有

プロジェクトとして考える

→ 実践モデルとしてプロジェクトを仕立てる（どんなことから　等）

総合計画に委員が考えた実践モデルを反映（計画書に掲載）

次年度以降 実践モデルの具現化

実践モデルの検討について

■3回の分科会のイメージ（実践モデルをつくる！）

プロジェクトシート的に
考えると・・・

目標・取組	目標 タイトル	• 実践モデルの目標やテーマ
	ねらい 目的	• 何のために
	対象	• 誰に対して、何に対して • （実践モデルで幸せにしたい人は？）
実行手段	方法	• どのように、 • どのような方法で
	時期 期間	• いつから
	主体	• 誰が、誰と、 • 自分ができることは？

分科会
（1回目）

分科会
（2、3回目）

今回の分科会のテーマ

- 2つの分科会では、それぞれ1つをテーマについて、どのような目標で、どのような取組が必要か、どのような取組を実践するか、具体的に検討します。

第1分科会のテーマ

『高齢者の活躍』

第2分科会のテーマ

『石狩の顔づくり』

- さまざまな背景から、「なぜ？」「誰のために？」「どのようなこと？」を実践すべきかを考えてみてください。
- 実践することで「どのようになるか」も一緒に考え、課題（なぜ？）と突き合わせることで、特に大切にする取組を考えてみてください。

例えば

「高齢者の活躍って？」「高齢者が活躍できるには？」「高齢者が活躍することで、まちにどのような効果があるか？」

「石狩の顔って、どんなことか？」「どのように石狩の顔をつくるか？」「石狩の顔をつくるために必要なことは？」「石狩の顔をつくることで、まちがどのようになるか？」

グループでの議論のポイント

特に大切にしたい取組

- テーマに関して、日頃の暮らしや活動を通して、特に大事だと思うこと・大切にしたい取組の視点で考えましょう。
- 「1粒で2度も3度も、おいしい！」ように、たくさんの波及効果が生まれる取組を考えましょう。

自分ごととして

- まちづくりをすすめていく理念の一つである「協働」の姿勢で、市民が主役のまちづくりの視点が重要です。
- 市民がやること・できることを、自分ごととして考えてみましょう。
- 「自分」や「仲間同士」、「地域」など、市民としてできることを考えましょう。

お金を外に出さない

- 人口が減少していくなかでは、市の財政は厳しくなっていきます。限りあるお金をどのように使っていくかが大切です。
- 「お金をできるだけ使わない」「お金を外に出さないで、石狩のなかで循環させる」という視点で考えましょう。

審議会やこれまでの市民討議会等での関連する意見
～第1分科会テーマ:「高齢者の活躍」～

〇高齢者の雇用・起業支援
- 働ける高齢者を活用による人材不足の解消。そのための起業支援。
- 高齢者の具体的な働く場づくり。長く働けるまち。
- 高齢者雇用に関する情報の開示。
- 高齢者の職業訓練。
- 高齢者が山でキノコを採って売る。里山の維持を行う。
- 高齢者による農業支援

〇高齢者の活躍の機会づくり
- 健康で長生きできる社会づくりのための高齢者の活躍の場。
- 高齢者の貴重な話を聞く。多世代と交流して昔の知恵や文化を伝える。
- 得意分野を発表できる場所。
- 趣味を活かした収入につながる活動（雪かき・公園草刈）。
- 高齢者の町内会単位でのコミュニティづくり。

〇高齢者活用のための仕組み
- 働ける高齢者のデータバンクをつくり、企業に紹介するシステムをつくる。高齢者の趣味や技術のデータベース化。
- 高齢者を対象とした有償ボランティア制度の確立。
- 石狩市シルバーコンシェルジュ制度の創設（現役時代のキャリアを活用してもらう）。

審議会やこれまでの市民討議会等での関連する意見
～第2分科会テーマ:「石狩の顔づくり」～

〇住民が集まる場、中心核
- 住民が楽しめる、集まりたくなる広場等。
- 住民が集う場所。

〇コンパクト化
- 石狩の中心はどこなのか、商店街をコンパクトにまとめる。

〇特産物の開発・PR
- 石狩ブランドの発信
- 石狩の特産物をPRする。
- 石狩産の農水産物を使った食品の開発（簡単・おいしい・手軽といったキーワードで食べられるもの）。

〇イベント・発信
- 石狩市全域一体のイベントの開催（特に食に関して）。
- 港からの発信（釣り、レジャー、）

〇石狩文化
- 海、山、川など自然を生かした文化づくり。
- 外国人観光客に石狩文化を体験させる。
- このために石狩の歴史と文化をきちんと整理し、マイスター制をしく。
- 石狩市民なら知っている祭り、踊り、歌などの創出。

〇地域ごとのまちづくり
- 地域ごとにそれぞれ特色をもたせる。